

軽度脳障害者のための情報セラピーインターフェースの研究開発(株式会社国際電気通信基礎技術研究所) 平成17年度中間評価結果

項目	評価 ランク	所見	再評価 ランク	再所見
総合所見	A	<p>(技術: 研究を成功させるためのポイント、その他特記事項等についての総合的な所見)</p> <p>本研究は、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報セラピーという学際的な研究分野を創出した。 (2) IT技術を活用した介護支援という狙いは、実際のニーズを反映し社会的要請に十分適合している。 (3) 「思い出ビデオ」という、軽度脳障害者の介護に有効であることが実証されているトピックに特化している。 (4) そのため、実用性や有効性に対する見通しが明るい。という点で高く評価できる。 <p>三つのサブテーマのうち、「意図検出インタフェース」は研究の方向性も適切であり、より一層の成果を期待したい。「刺激提示インタフェース」に関しては、探索的な研究課題という側面もあるため十分な成果が上がっておらず、視聴覚コンテンツの製作支援に研究がシフトしている。むしろ視聴覚により注力することが適切であると考え、「コミュニティ・プラットフォーム」に関しては、有効性の確認のためにも、できるだけ早期に大規模な実証実験を行うことが肝要である。</p> <p>プロジェクト全体に関わる今後の課題としては、ノウハウ的な強みだけでなく、個々の要素技術についても優位性を発揮できるように努めることである。</p>		<p>(技術: 研究を成功させるためのポイント、その他特記事項等についての総合的な所見)</p>
		<p>(事業化: 事業化のシナリオ、波及効果の見込、収益の可能性等に関する総合的な所見)</p> <p>社会的に意義の高い領域を対象とした研究開発である。しかし、本研究開発成果は潜在的な市場開拓型の事業化であるため、事業化の実現性を正確に予見することは難しく、どうしても不確実さが伴う。本技術成果が事業化に極めて有効であり、必要不可欠な技術優位性を持つかどうかについては、さらなる成果の評価・実証を必要とする。その評価・実証活動を通して、顧客基盤(老人福祉施設、老人医療機関等)を強固にする取組みに注力することが望まれる。</p>		<p>(事業化: 事業化のシナリオ、波及効果の見込、収益の可能性等に関する総合的な所見)</p>